

窟たり。更に其の西南馬行八日程、和闐に到るべきも、沙漠中所々沮洳たる草澤地あるが故に、行路頗る困難とす。嘗て準噶爾汗、策妄那布坦此路より西藏を犯さんとし、沙雅爾の土民を嚮導と爲し、前進未だ幾許ならざるに、殆んど全兵の半を覆没せり。因て路を更め、阿克蘇より和闐に出で、西藏に浸入せりと云ふ。

第八節 庫車より阿克蘇に到る

一、烏壘の碑

七月九日午前六時三十五分、庫車を發す。北行約三里弱、石灰質の軟岩、風雨の爲めに浸蝕を受け、千態萬狀の奇觀を呈する河谷を進み、又行く八里にして鹽水溝（或は托和且トホタシ）に到る、此地驛傳及官店の存在する外、復た一個の人家なく、水あるも苦鹹飲むべからず。已むを得ず再び此を發し二里餘にして沙土蘭達坂（シヤドラン）に到る頃、日漸く没す。此地は庫車、拜城の境界點にて、單に一空房と一官店とを見るのみ。已むを得ず又前進を繼續す。是より道路は西方に轉じ、夜行十里餘、十日午前一時五十分、河色爾に着す。途次、沙土蘭達坂以西は沙磧を走る、緩徐の降坂路を成し以南は

鹽水溝の水

沙土蘭達坂